

岩手県大槌町吉里吉里漁港 PR資料

大槌町：現地調査等による現状、課題整理

現状把握

〔地域の概要〕

- 大槌町は岩手県沿岸部のほぼ中間に位置し、天正年代から海産物の交易等で栄えてきた。特に、特産の鮭を新巻（塩鮭）に加工した「南部鼻曲がり鮭」発祥の地として知られる。
- 黒潮（暖流）と親潮（寒流）、津軽暖流（暖流）の3つの海流が近接することによって、良好な漁場が形成され、「世界三大漁場」の一つである北西太平洋海域（三陸）に含まれる。
- 東日本大震災では甚大な被害を被ったが、主要産業である漁業を中心に復興が進み、現在は漁業経営体数も震災前の77%程度まで回復してきたところである。



〔漁業の概要〕

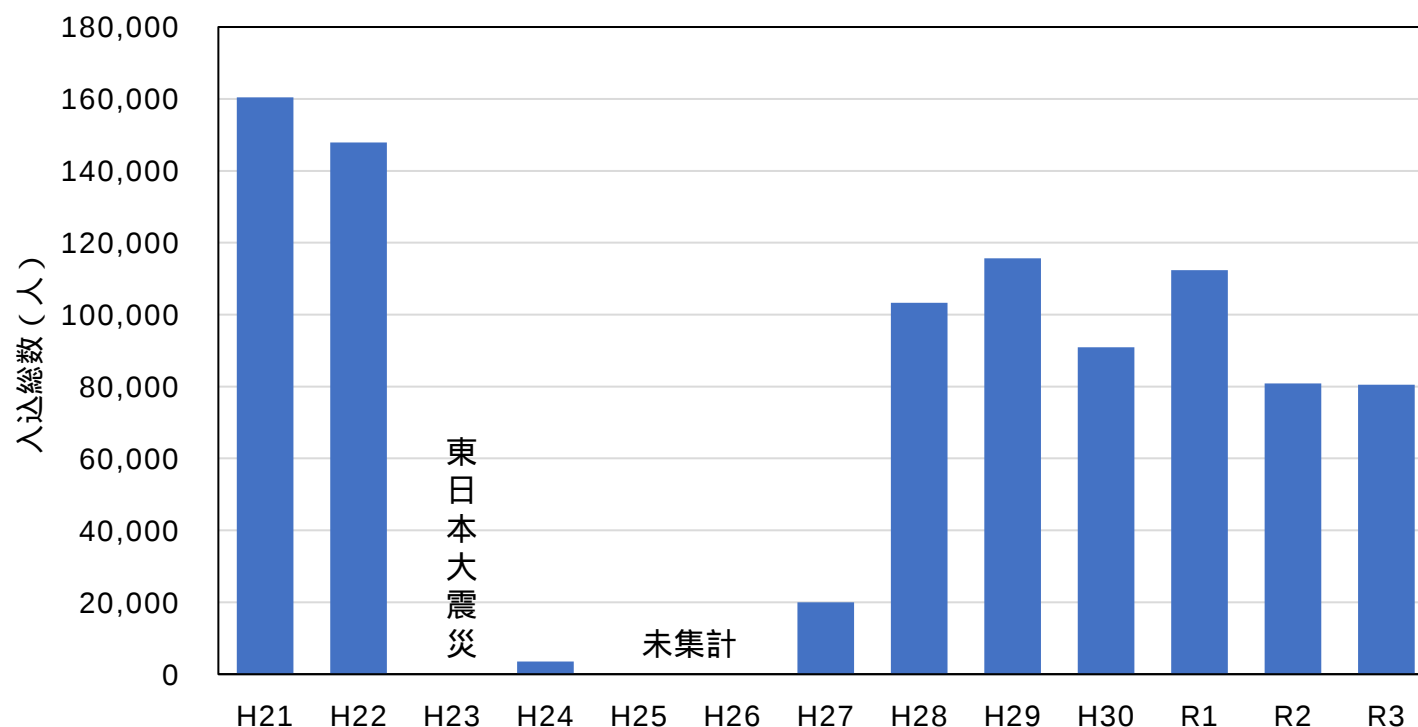
- 以前では遠洋まぐろ、沖合底曳き等の漁船漁業が盛んであったが、国際的な漁業規制や燃油価格高騰のコスト高により、その規模が縮小した。定置網漁業やホタテガイ、カキ、ワカメ、コンブ等の養殖漁業など、沿岸域でのつくり育てる漁業を中心に行われている。
- 震災後はカキ・ホタテ・ワカメ養殖業を基幹として復興が進んできたが、スルメイカ、サケ、サンマといった主要魚種の不漁が原因で定置網漁業の低迷、大槌魚市場の取扱高減少等の課題が顕在化。漁業経営環境は著しく厳しい状況にある。漁業や関連産業の縮小（加工・流通産業における原料の確保、調達価格の高騰）といった課題に直面している。

南部鼻曲がり鮭

400年以上前の安土桃山時代に大槌で誕生したと伝えられている。当時の城主である大槌孫八郎は「この地の鮭を江戸に運び、大槌の名物にできないか」と考え、美味しく長期保存できる新巻鮭を編み出した。新巻鮭は鮭を塩蔵したのち寒風干しにした加工品で、現在も昔からの変わらない手作業によって作られる、三陸を代表する伝統的な特産品。

[観光の概要（つづき）]

- 平成19年までは20万人以上の観光入込客数があったが、人口減少や旅行者のニーズや旅行スタイルの多様化によって年々減少傾向である。（第9次大槌町総合計画より）
- 平成22年は16万人まで減少していたが、東日本大震災の影響で、町の観光資源や宿泊施設等も甚大な被害を受け、観光客は激減した。徐々に観光客の入込は回復傾向にあり、平成28年には10万まで回復している。（第9次大槌町総合計画より）
- 令和3年は、8万人程度であり、観光客の推移は頭打ちである。



大槌町の観光入込客数の推移

データ：大槌町より受領

現状把握

[地域経済]

- 第 1 次産業の生産額のうち各産業が占める割合は、農業4.1%、林業14.5%、水産業81.4%と、水産業が地域経済を支える重要な産業となっている。（岩手県釜石圏域総合水産基盤整備事業より）
- 大槌町で事業所数・従業者数が多い産業は、製造業、卸売業・小売業である。
特に従業員舎数が多い産業は、食料品製造業や飲食料品小売業である。

大槌町 産業別民営事業所数及び男女別従業者数（R3経済センサス）

産業中分類	事業所数	従業者数		
			男	女
AR_全産業（S_公務を除く）	432	3,180	1,609	1,571
A_農業 林業	3	27	19	8
01_農業	1	7	2	5
02_林業	2	20	17	3
B_漁業	3	60	53	7
01_漁業（水産養殖業を除く）	3	60	53	7
02_水産養殖業	-	-	-	-
C_鉱業、採石業、砂利採取業	2	47	44	3
D_建設業	46	295	252	43
E_製造業	44	735	417	318
F_電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-
G_情報通信業	3	5	3	2
H_運輸業、郵便業	11	127	104	23
I_卸売業、小売業	119	639	262	377
J_金融業、保険業	5	29	17	12
K_不動産業、物品賃貸業	11	60	27	33
L_学術研究、専門・技術サービス業	8	45	32	13
M_宿泊業、飲食サービス業	49	188	55	133
N_生活関連サービス業、娯楽業	60	197	75	122
O_教育、学習支援業	8	91	6	85
P_医療、福祉	24	470	146	324
Q_複合サービス事業	8	33	12	21
R_サービス業（他に分類されないもの）	28	132	85	47

産業中分類	事業所数	従業者数		
			男	女
09_食料品製造業	14	243	98	145

58_飲食料品小売業	43	294	96	198
60_その他の小売業	50	259	127	132

課題と海業の方向性

- 地区の課題を踏まえ、海業によってめざしたい方向性を整理した。

大槌における課題

■ 漁業における課題

資源減少

- 漁業収入の低下、魚価低下
- 担い手不足

・ 養殖の推進
・ 藻場再生活動の推進
・ 魚価向上

■ 漁港における課題

- 震災後活用余地拡大
- 既存施設の機能充実、拡大と魅力発信

・ 吉里吉里フィッシャリーナの活用
・ 吉里吉里漁港と吉里吉里フィッシャリーナの機能分担

■ 地域社会における課題

- 水産業の衰退により関連産業、商業、飲食業等も衰退
- 人口減少、高齢化
- 働く場が少ない

・ 地域産業の活性化
・ 地域住民の集いの場の創造
・ 新たな職の創出
・ 雇用の創出

海業によってめざしたい方向性

サーモン養殖業の規模拡大と生産性の向上

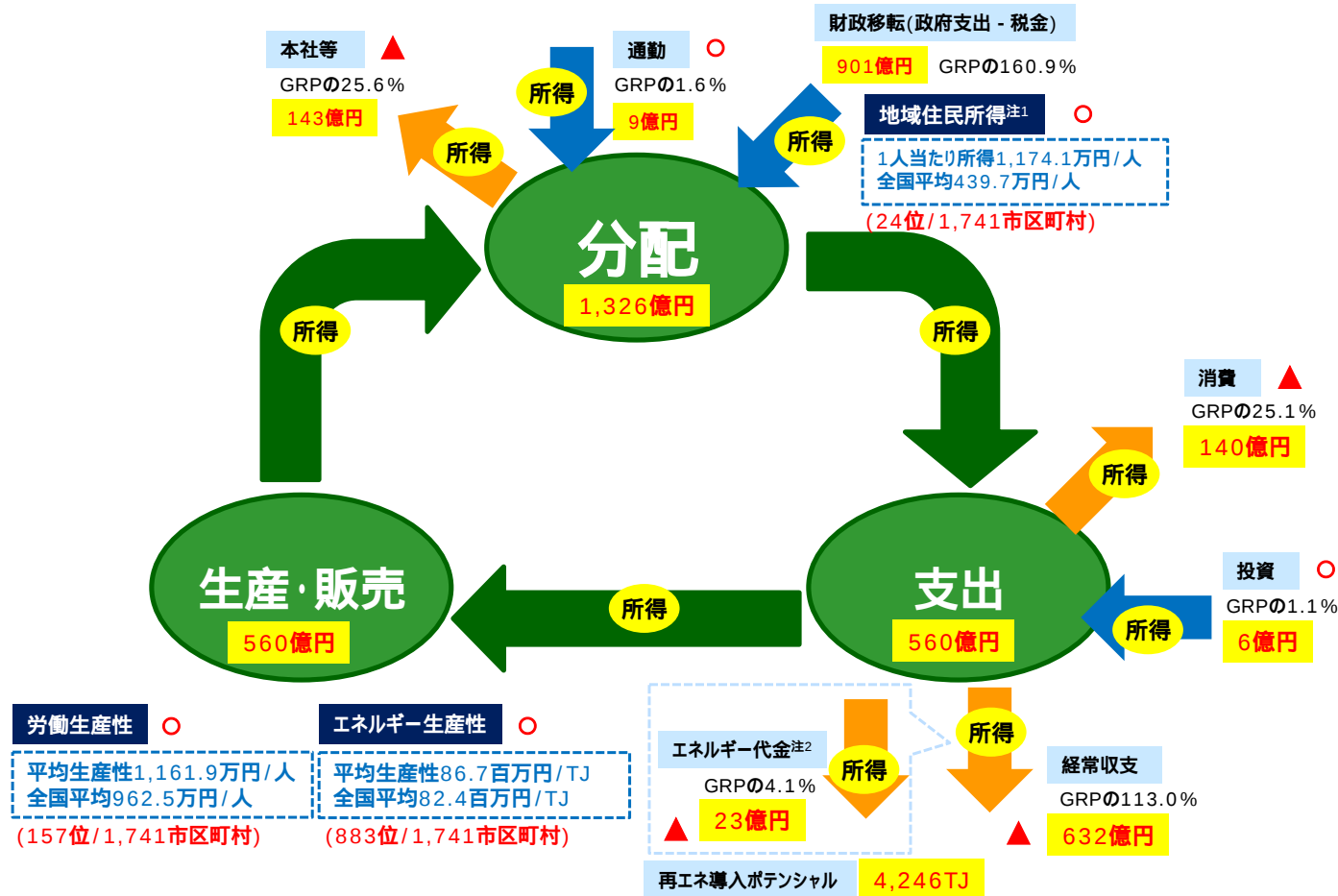
+

藻場再生活動の推進と連動したウニ蓄養事業の事業化

上記2事業と連動した観光、教育関連事業の展開

[地域経済]

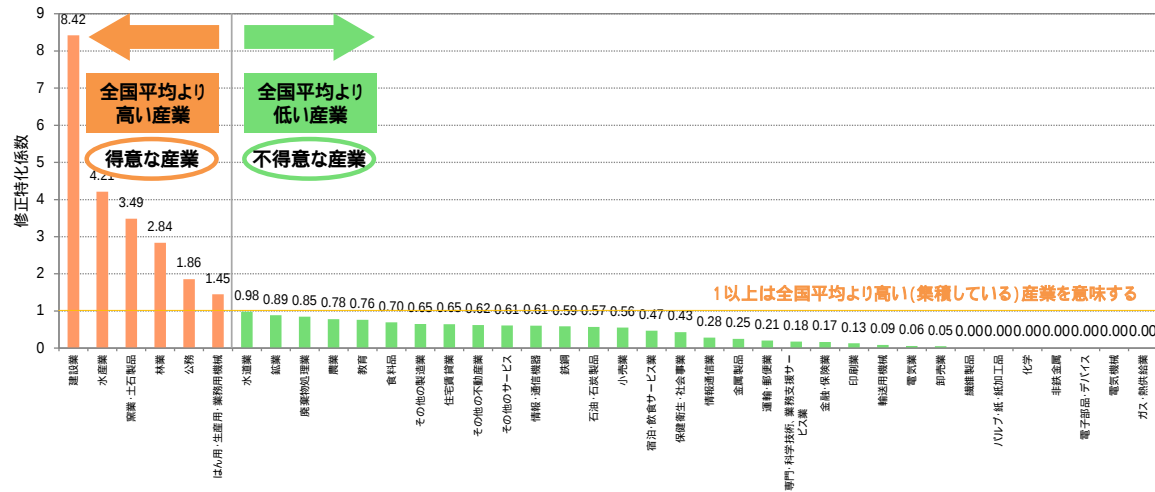
- 大槌町の所得循環構造においては、生産・販売は、全体で560億円の収入があり、そのうち労働生産性は1,161.9万円/人と全国平均と比較すると高く、エネルギー生産性も86.7百万円/TJと全国平均（82.4百万円/TJ）より若干であるが高い。全体で1,326億円の収入があり、そのうち通勤で9億円、財政移転が901億円の収入がある。また、本社等が大槌町でない企業への支出が143億円あり、大槌町の地域住民所得は1人あたり1,174.1万円と全国平均より高い結果となっている。
- 支出は、全体で560億円であり、そのうち大槌町内での消費は140億円の収入がある一方で、投資、経常収支、エネルギー代金は大槌町以外に多くの支出が発生していることがわかる。



[地域経済]

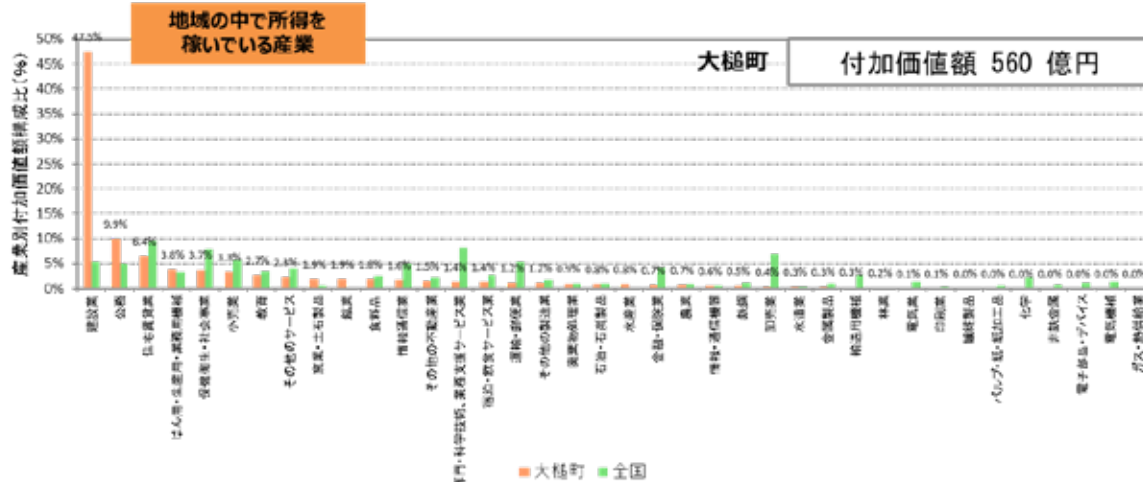
- 大槌町においては、建設業、水産業、窯業・土石製品、林業、公務、はん用・生産用・業務用機械に比較的優位性があり、特に建設業においては付加価値額構成比は比較的高い傾向にある。

産業別修正特化係数（生産額ベース）



・生産額ベースでの産業別修正特化係数で見ると、大槌町は建設業と水産業に比較優位性がある。

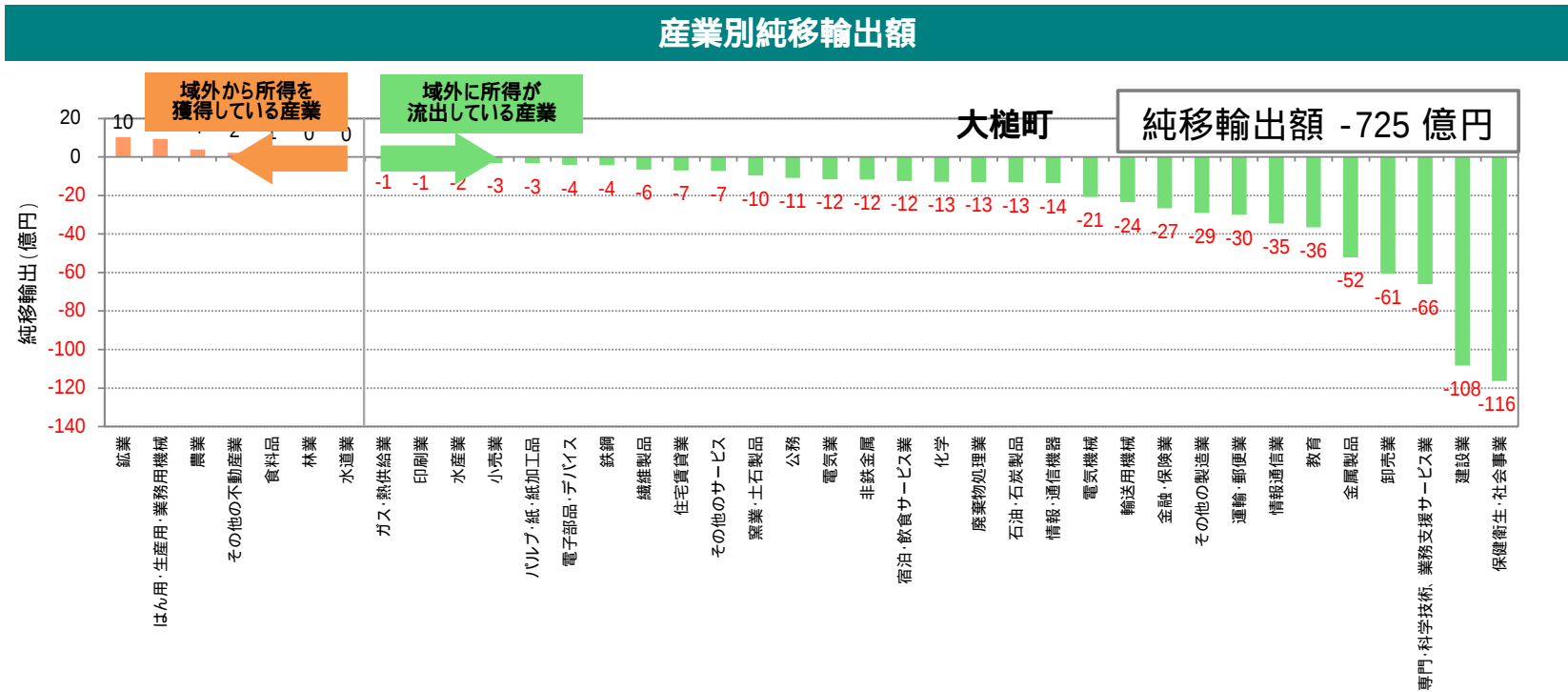
産業別付加価値額構成比



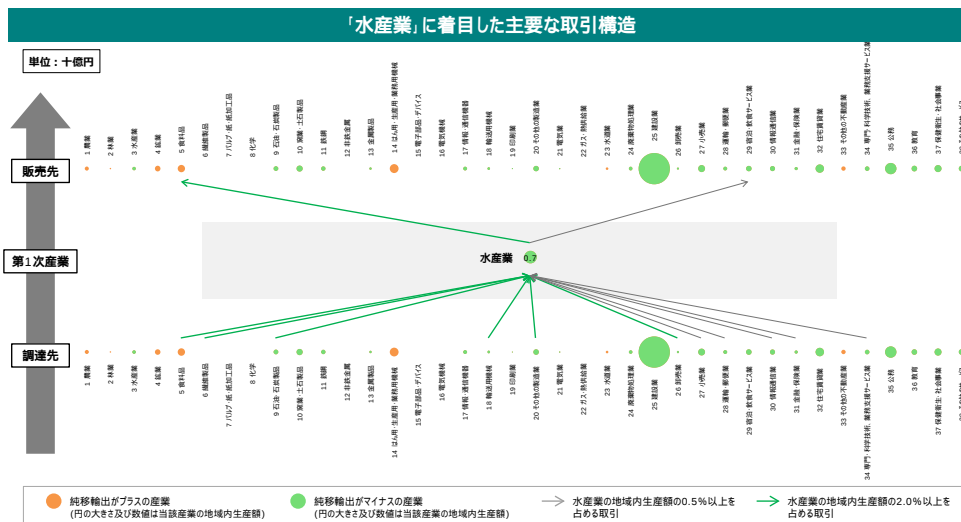
・産業別付加価値額構成比では、水産業が0.8%である。

[地域経済]

- 域外から所得を獲得している産業は鉱業、はん用・生産用・業務用機械、農業、その他の不動産、食料品等である。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。



- 大槌町の水産業の場合、特に食料品産業との取引が地域の経済規模に占める割合が大きい。
- 純移輸出がマイナスとなっており、地域内の需要を域内の生産で賄うことができていない。
域内の生産を上げることで供給率を向上を期待。



9

海業の事業計画骨子（案）【岩手県大槌町 吉里吉里漁港】

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

- 大槌町は岩手県沿岸部のほぼ中間に位置し、天正年代から海産物の交易等で栄えてきた。特に、特産の鮭を新巻（塩鮭）に加工した「南部鼻曲がり鮭」発祥の地として知られる。東日本大震災で甚大な被害を被ったが、主要産業である漁業を中心に復興が進み、現在は漁業経営体数も震災前の77%程度まで回復してきたところである。
- 震災後はカキ・ホタテ・ワカメ養殖業を基幹として復興が進んできたが、スルメイカ、サケ、サンマといった主要魚種の不漁が原因で定置網漁業の低迷、大槌魚市場の取扱高減少等の課題が顕在化。
- 漁業や関連産業の縮小（加工・流通産業における原料の確保、調達価格の高騰）といった課題に直面している。

【海業の現状と課題】

- 基幹産業の低迷による人口減少・高齢化の進行が大きな課題で、地域産業の活性化及び新産業の創出、これらによる新たな就業機会の創出が望まれている。
- 上記の課題に対し、企業との連携によるサーモン養殖業の新規導入、外部機関・団体と連携した藻場保全活動等の展開といった取組が実践され、一定の成果が挙げられている。今後は中核的取組のさらなる推進とともに、有機的な連携を図って相乗効果を上げていく仕組みづくりが必要。

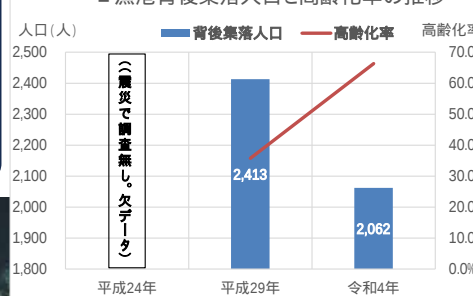


【海業の課題の解決方向】

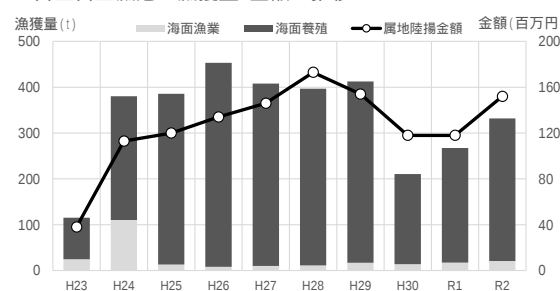
サーモン養殖業の規模拡大と生産性の向上 + 藻場再生活動の推進と連動したウニ蓄養事業の事業化

上記2事業と連動した観光、教育関連事業の展開

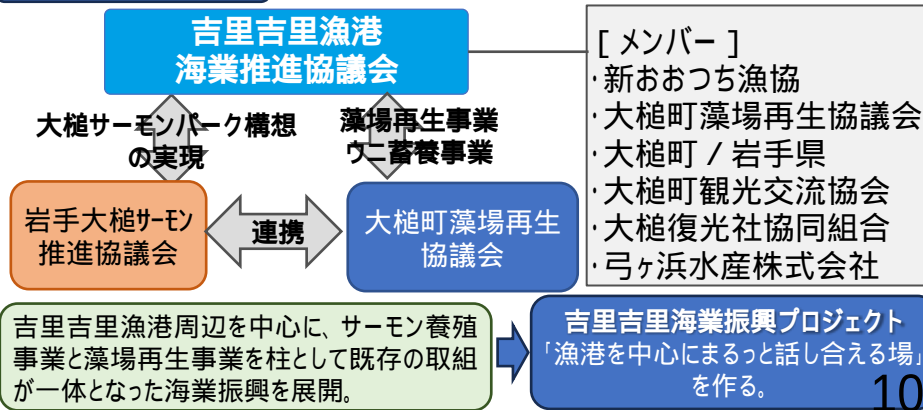
■ 漁港背後集落人口と高齢化率の推移



■ 吉里吉里漁港の漁獲量・金額の推移



2. 検討体制



海業の事業計画骨子（案）【岩手県大槌町 吉里吉里漁港】

3. 海業の方針

新たな産業として地域に根付いてきた「**岩手大槌サーモン養殖事業**」と、活動実績を積み重ねてきた「**藻場再生事業**」及び「**ウニ蓄養事業**」を中核とし、地域の基幹産業である「**養殖業**」の振興を図る。加えて、これら**中核事業から派生する事業も含めて連携体制を構築し、地域全体で「海業」を推進する**（**吉里吉里漁港を中心にと話し合える場の創出 = 吉里吉里漁港海業振興プロジェクト**）。

【取組】

- 岩手大槌サーモン養殖事業の成長産業化（生産規模の拡大、必要となる漁港施設機能の整備）
- 藻場再生事業及び、ウニ蓄養事業の事業化
- （上記取組とも連動した）観光・交流、海洋学習事業の展開

現在検討中（変更の可能性あり）

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

【岩手大槌サーモン養殖事業の成長産業化】

・養殖生産拡大に向けた具体策の検討・実践

- 1) 内水面養殖（中間育成）施設の整備
- 2) 吉里吉里漁港の養殖拠点機能施設整備の検討
- 3) 地元漁協組合員等による養殖業参入の検討

・「岩手大槌サーモン祭り」等での消費拡大・PR活動

【期待される効果】

- 漁業所得の向上
- 地域の雇用の創出
- 加工・流通等関連産業への経済波及

【藻場再生事業及び、ウニ蓄養事業の事業化】

・磯焼けにより消失した藻場の再生・保全活動の継続

- 1) 磯焼け対策活動（ウニ駆除等）の継続
- 2) 藻場再生協議会事務局の運営
- 3) Jブルークレジット活用による持続可能な保全活動の実現

・磯焼け対策活動で生じる痩せウニの有効活用

- 1) 痩せウニの蓄用試験の実施（陸上・海面での蓄養試験）

【期待される効果】

- 漁業所得の向上
- 藻場保全による資源回復

【観光、教育連携事業の展開】

・既存取組の連携による観光・交流及び海洋学習の推進

- 1) ニーズ調査、コンテンツ開発（藻場再生、スキューバダイビング、漁業体験 等）
- 2) 出前授業、はま留学、教育旅行の継続・改善・発展

【期待される効果】

- 交流人口の増大
- 地域の理解増進
- 賑わい創出



■ 各事業の概要

岩手大槌サーモン養殖事業の成長産業化

大槌町では町内外の関係事業者と連携するため「岩手大槌サーモン養殖推進協議会」を設置し、種苗生産から海面養殖に至る一連のサーモン養殖業での水産業クラスターを構築している。同協議会で共有されている目標として生産量2,000t/年であり、目標実現に向けた以下の取組を実施する。

1) 内水面養殖（中間育成）施設の整備

■事業概要：生産量2,000tの実現に向けて種苗の確保が課題となることから、町内でのサーモン種苗生産規模の拡大を目指し、各事業者が飼育水槽等を整備し、稚魚生産拡大を目指す。

■事業主体：各事業者

■実施時期：令和5～7年 申請、実施

2) 養殖拠点機能施設整備の検討

■事業概要：現在吉里吉里漁港で養殖魚を水揚げしているが、処理能力が不足していることから、1日の水揚げ量及び処理量が制限されており、生産量拡大において重要な問題となっている。また、衛生管理面からも生産量拡大に合わせて、新たな生産拠点を検討する。

■事業主体：養殖実施事業者、岩手県

■実施時期：令和6年から調整、検討

3) 地元漁協組合員等による養殖業参入の検討

■事業概要：地元漁協組合員等を主体とするサーモン養殖、加工処理、販売を実施し、生産量の拡大、漁業者の所得向上を目標とした、地元を主体とするサーモン養殖を検討する。

■事業主体：地元漁協組合員等

■実施時期：令和6年から調整、検討

現在検討中である。今後変更の可能性あり。

■ 各事業の概要

藻場再生事業の推進

近年、大槌町をはじめとする三陸近海では、海水温とウニ密度の上昇の影響により藻場が著しく減少・消失する「磯焼け」が進行し、磯根資源の水揚量減少など深刻な影響を及ぼしている。磯焼けによって消失した藻場の再生・保全を行うことを目的とした藻場再生活動による資源の保全を進め、磯根資源の水揚量確保による漁業者の所得向上を目指す。

1) 磯焼け対策活動（ウニ駆除等）の継続

- 事業概要：磯焼けが進行するエリアでのダイバーによる環境調査、海藻種苗供給、ウニの密度管理等を行う。
- 事業主体：大槌町藻場再生協議会
- 実施時期：実施中（令和6年以降も継続予定）

2) 藻場再生協議会事務局の運営

- 事業概要：大槌町産業振興課内に設置されている大槌町藻場再生協議会事務局について、地元NPO等への移管し、より持続的な事業運営体制を構築する。
- 事業主体：【移管への検討・調整】大槌町 【移管後の事務局運営】地元NPO等
- 実施時期：令和6年検討、令和7年新体制開始

3) Jブルークレジット活用による持続可能な保全活動の実現

- 事業概要：大槌町内にある藻場の面積や被度を測定し、ブルーカーボン量（CO₂吸収量）を算出、Jブルークレジットの申請を行う。認証後のクレジット販売利益を活用し、里海保全に係る理解醸成と意識向上、持続可能な藻場再生活動の実施に繋げる。
- 事業主体：【申請主体】大槌町 【調査実施】大槌町藻場再生協議会
- 実施時期：令和6年調査・申請・認証、令和7年以降継続

■ 各事業の概要

痩せウニ蓄養事業の事業化

■ 事業概要：

磯焼けの原因の1つであるウニの異常繁殖と海水温上昇によるウニの摂餌活性化による食害対策として、ウニの密度適正に保つため痩せウニの駆除・移植を実施している。

本事業では藻場再生事業で駆除対象とされた痩せウニを利活用し、新たな所得の確保を目的としたウニ蓄養への取組を実施し、蓄養ウニの出荷・販売による新たな所得の創出を目指す。

■ 事業主体：新おおつち漁協、地元漁協組合員等

■ 実施時期：試験養殖次第 事業化

現在、調整・検討中である。今後変更の可能性あり。

事業想定

藻場再生活動で駆除した痩せウニを海上、または陸上にて蓄用し、身入りを良くして出荷販売する。

■ サービスの内容と価格

痩せウニは磯焼けエリアで駆除されたウニを大槌町藻場再生協議会から無償提供、餌料は生海藻（生産過程で間引きのため廃棄される生ワカメ）、野菜端材、人工飼料等を使用する。

2,000～3,000円/kg 生ウニが流通しない冬季（年末年始シーズン）販売。

■ 取扱商品、サービスのセールスポイント

藻場再生活動、磯焼け対策との連携。漁業者協働。海洋環境保全。ブルーカーボン。SDGs。

■ 販売ターゲット、見込客数、販売戦略

ターゲット：地域内外の販売業者、レストラン等。

販売戦略：藻場再生活動や磯焼け対策活動のストーリー性を生かして、独自にブランド化を進め、他地域の蓄養ウニとの差別化を図る。

■ 競合・市場など企業を取り巻く状況

近年、各地で痩せウニの蓄養が試験研究され、販売が行われている地域もある。主に生ウニが流通しない冬場、特に12月に向けて出荷を行う地域が多くあり、高値で取引されている。

■ 各事業の概要

観光連携事業の展開

■ 事業概要：

大槌町の関係交流人口拡大と海業の周知を目的とし、漁業者やダイバー等と連携して漁港周辺環境をフィールドに、ブルーツーリズム、漁業、藻場再生活動、マリンレジャー等を活用した体験型観光プログラムを実施する。

さらに事業成果や参加者ニーズの調査結果、他の海業振興事業の状況を踏まえ、新たなコンテンツの開発を実施する。

■ 事業主体：大槌町観光交流協会

■ 実施時期：実施中（令和6年以降も継続予定）

事業想定

教育連携事業の展開

■ 事業概要：

大槌町の海洋・水産について地域の子供達に普及するため、また、次世代の大槌町の海業を担う人材を育成するため、以下の大槌町海洋教育プログラムを策定・実施する。

- 1) 町立教育機関での海洋教育プログラムの実施
- 2) 県立高校での取り組みとの連携
- 3) 教育・研修旅行の受入

■ 事業主体：大槌町、大槌町教育委員会事務局、各学校、NPO

■ 実施時期：実施中（令和6年以降も継続予定）

漁港周辺や静穏海域を活用した体験型イベントを実施（例）里海ダイビング

■ サービスの内容と価格

磯焼け対策として実施しているスキューバダイビングを活用した瘦せウニの移植や駆除、海藻種苗設置等の体験型イベントを行う。
体験費用：10,000円/回

■ 取扱商品、サービスのセールスポイント

海洋生態系に触れるのがタブーとされているスキューバダイビングにおいて、「自らの手で海を耕す」という世界的にも大槌でしか体験できないダイビングをセールスポイントに、町内外からの参加を募る。

■ 販売ターゲット、見込客数、販売戦略

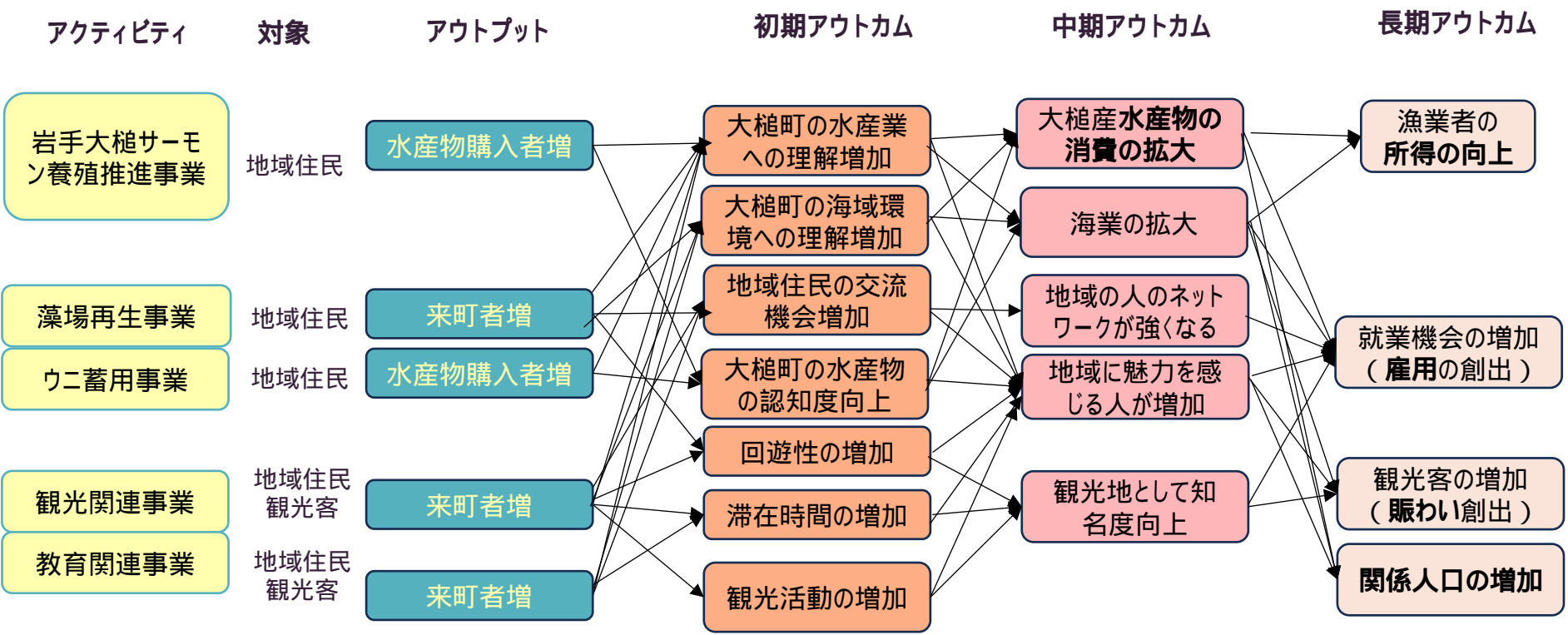
ターゲット：地域内外のダイバー 見込客数：10人/回×2回/年＝20人/年

■ 競合・市場など企業を取り巻く状況

東北以北ではレジャーとしてのスキューバダイビングが行われている地域は少ない。また、海をフィールドにしたブルーツーリズムは夏季をメインとし、冬季はほとんど行われていない。関東以南ではマリンレジャーを活用し海をフィールドにしたブルーツーリズムが行われているが、夏季をメインとしており九州以南を除いて冬季は休業となっている地域が多い。

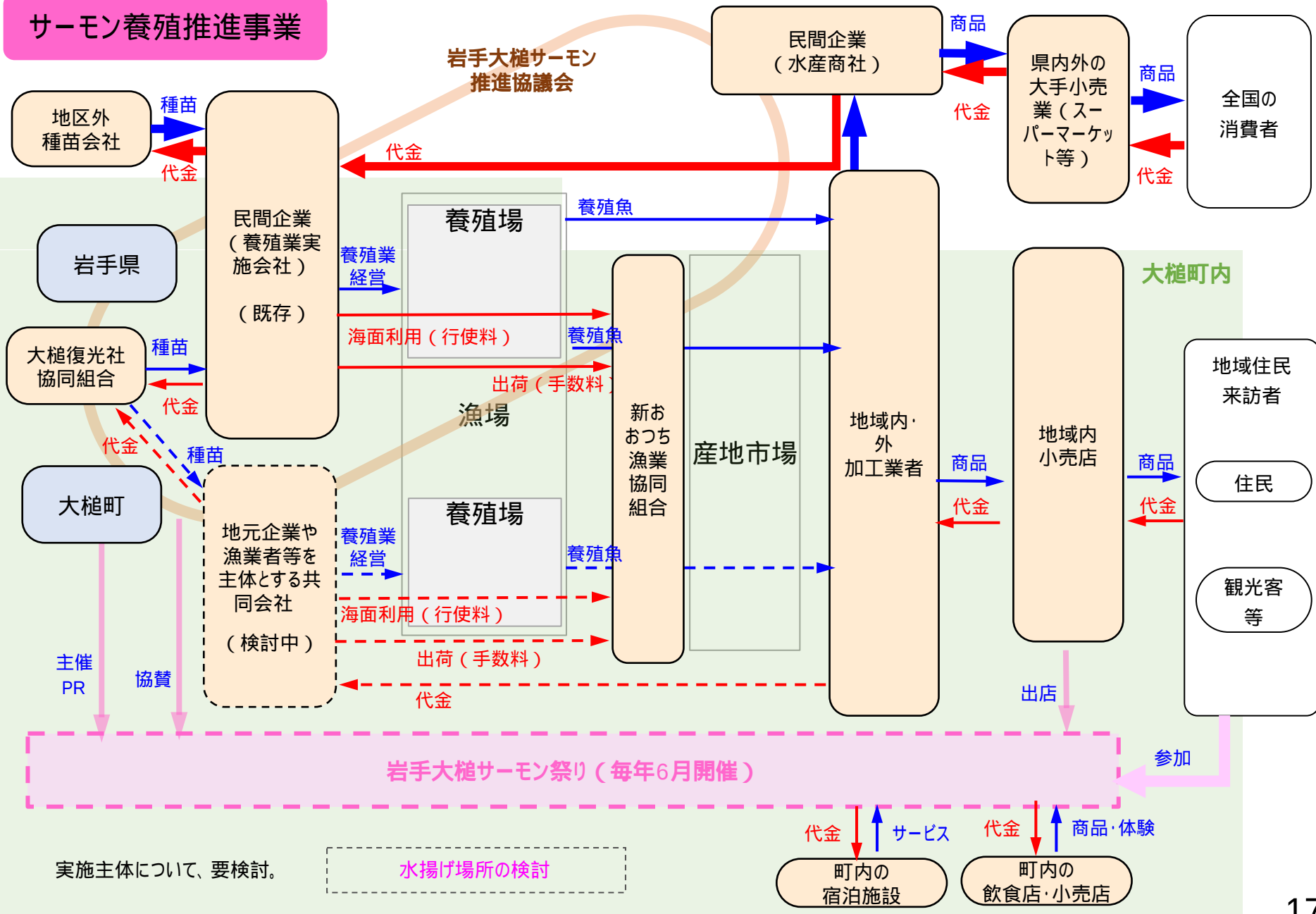
現在、調整・検討中である。今後変更の可能性あり。

■ 事業の効果（ロジックモデル）



■ 海業の関係主体間の経済関係

サーモン養殖推進事業



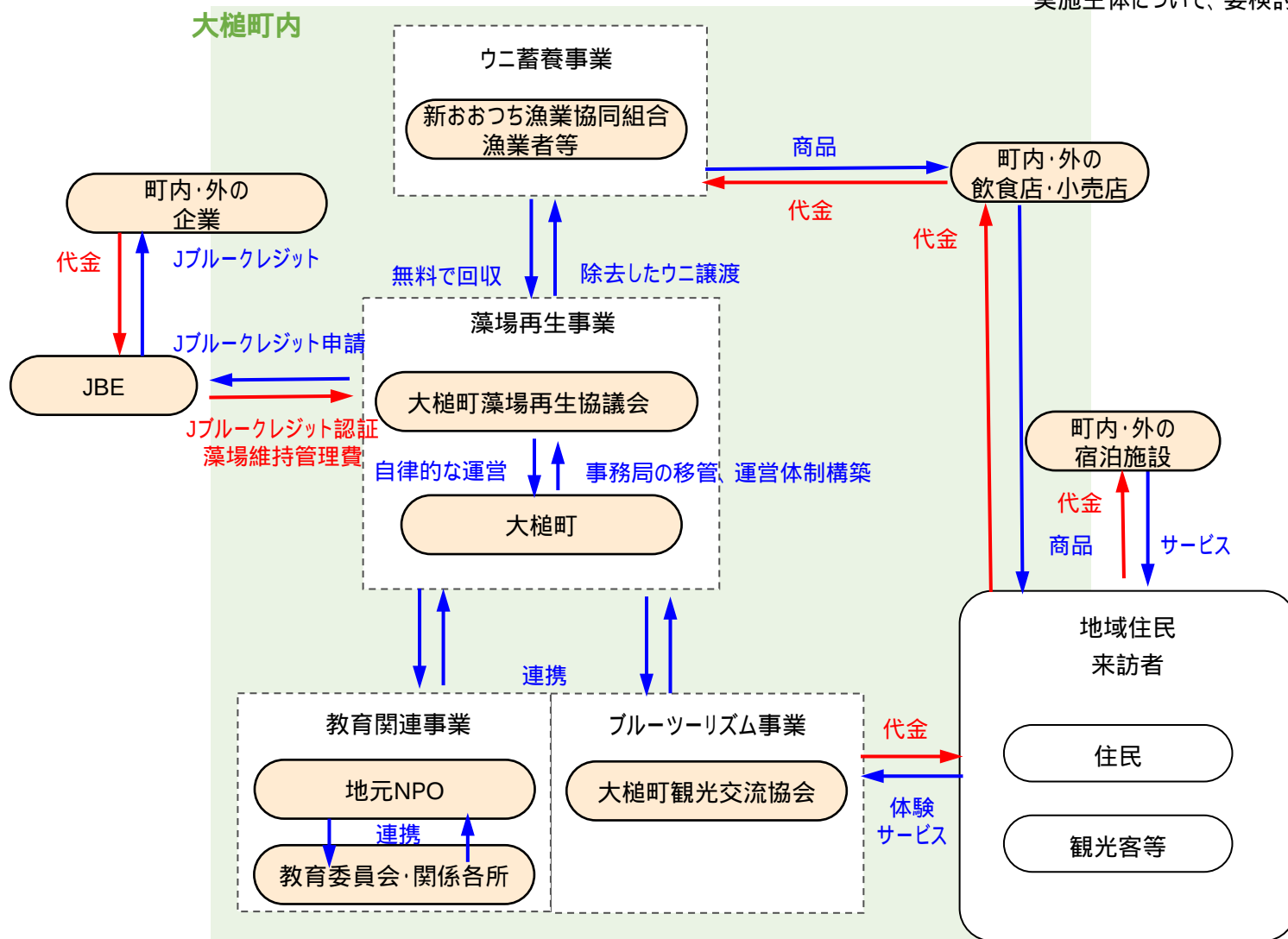
■ 海業の関係主体間の経済関係

藻場再生事業、ウニ蓄養事業

観光関連事業、教育関連事業

藻場再生協議会には以下の組織を含む。
新おおつち漁協、漁業者、地域住民、NPO三陸ボランティアダイバーズ、NPOおつちのあそび、大槌町

実施主体について、要検討。



想定されるスケジュール

海業推進にむけた実施事項とスケジュール案

事業名	事業主体	実現までの実施事項					実施時期									
		実施項目	概要	実施主体	活用したい支援事業	想定概算費用	短期					中期				
							R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
サーモン養殖推進事業	岩手大槌サーモン推進協議会	サーモン養殖施設整備	サーモン生産量増大のため、種苗生産や水揚げ施設を整備する	大槌復光社協同組合、弓ヶ浜水産株式会社	マーケット・イン型養殖業等実証事業	1億円		復光社	整備							
		養殖拠点機能施設整備の検討	吉里吉里フィッシャリーナを活用にあたり、調整・計画・整備の実施	岩手県	水産基盤整備事業、漁港機能増進事業				弓ヶ浜	申請・整備						
				弓ヶ浜水産	マーケット・イン型養殖業等実証事業											
		サーモン生産量拡大	地元漁協組合員等を主体とするサーモン養殖、加工処理、販売の実施	地元漁協組合員、新おおつち漁協等	マーケット・イン型養殖業等実証事業 強水	1.5億円										
藻場再生事業	大槌町藻場再生協議会	磯焼け対策活動（継続）	磯焼けが進行するエリアでのダイバーによる環境調査、海藻種苗供給、ウニの密度管理	大槌町藻場再生協議会	大槌町磯焼け対策事業費補助金 水産多面的機能発揮対策交付金	10,000千円										
		Jブルークレジットの認証・運用	Jブルークレジットの認証、販売金額を活用した持続可能な藻場再生活動の実施	大槌町、大槌町藻場再生協議会	町補助金 Jブルークレジット売買利益	調査費用										
		協議会事務局の運営	大槌町産業振興課内に設置されている協議会事務局について、地元NPO等への移管	大槌町、地元NPO	水産多面的機能発揮対策交付金 日本財団等の助成金	4,000千円										
ウニ畜養事業	新おおつち漁協、ウニ畜養組合（仮）	実証試験（継続）	藻場再生活動で駆除した磯焼けエリアの痩せウニの畜養事業の実証試験	新おおつち漁協、地元漁協組合員	町単独費	10,000千円										
		生産機能強化	生産量拡大を目的とした畜養カゴ、生簀等の新設・増設等の整備の実施	新おおつち漁協、地元漁協組合員	マーケットイン型養殖等実証事業	20,000千円										
		畜養ウニブランドング・PR	ネーミングやコンセプトのPRによるブランド化	新おおつち漁協、大槌町		2,000千円										

想定されるスケジュール

海業推進にむけた実施事項とスケジュール案

観光連携事業（ブルーツーリズム）	大槌町観光交流協会、NPO 法人おおつちのあそび	体験型観光プログラム実施（継続）	漁業体験や里海ダイビング、マリンレジャー等を活用した体験型観光プログラムの実施	大槌町観光交流協会	ブルーツーリズム推進支援事業（観光庁）	10,000 千円						継続的に実施					
		新たな観光コンテンツの開発	事業成果や参加者ニーズの調査結果等を踏まえた新たなコンテンツの開発	大槌町観光交流協会	ブルーツーリズム推進支援事業（観光庁）エコツーリズムを通じた地域の魅力向上事業	-	アンケート	コンテンツ開発									
		ブルーツーリズム拠点計画・整備	体験型観光イベント実施にあたって必要な拠点の計画、整備	大槌町	農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）海と日本 PROJECT 助成事業（日本財団）	1 億円	調整	計画	建設								
教育連携事業（海洋教育プログラム）	大槌町教育委員会事務局、各教育機関、NPO 法人おおつちのあそび	町立教育機関での海洋教育プログラムの実施（継続）	大槌町の海洋環境や水産業について出前授業や校外学習を実施	大槌町、大槌町教育委員会事務局、大槌学園、吉里吉里学園小学部、吉里吉里学園中学部、NPO 法人おおつちのあそび	学校・家庭・地域連携効力推進事業補助金	4,000 千円						継続的に実施					
		県立高校での海洋教育プログラム（継続）	実施内容の整理、プログラム化	岩手県立大槌高等学校、NPO 法人おおつちのあそび	地方創生推進交付金	20,000 千円						継続的に実施					
		教育・研修旅行の受入（継続）	大槌町の海洋環境や水産業について学ぶ機会の創出	大槌町、大槌町観光交流協会、NPO 法人おおつちのあそび	健全育成のための体験活動推進事業	3,000 千円						継続的に実施					